

金属材料を起因物とする飛来・落下の死亡災害発生事例（1999-2020年）

発生年	発生日	時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
1999	1	10 ～ 11	コンテナ車に積まれているアルミ切粉のプレス品が2段になっているものをフォークリフトで降ろす作業中、上段にあったプレス品が崩れて合図者がプレス品とコンテナの壁との間に挟まれた。	11101	100 ～ 299
1999	5	10 ～ 11	木材加工用機械の部品を2つ並べた高さ80センチの脚立の上に乗せた状態で放置しておいたところ、同部品(長さ4m、幅40cm、厚さ11cm、重量690kg)が脚立から落下し付近でグラインダー作業をしていた者の頭部に当たった。	10409	1～9
1999	5	14 ～ 15	工事現場内の堤防に伏せて置いていた写真撮影用黒板が突風で飛ばされ、堤防の下方でコンクリートの補修作業をしていた者の右側頭部に黒板裏側の支え棒が刺さった。	30107	10～ 29
1999	6	10 ～ 11	架設足場に使用する単管を小型移動式クレーンで荷揚げする作業で、単管の束をワイヤーロープ2本で玉掛けして吊り上げたところ、荷が傾いてワイヤーロープからすり抜けて落下し、その下敷きになった。	30199	10～ 29
1999	8	13 ～ 14	ガス管埋設工事で、シートパイルホイール式油圧ショベルに油圧バイブロアタッチメントを取り付けてシートパイル(長さ7m重量420kg)をチャッキングし引抜いたところ、シートパイルが抜け落ちて当たった。	30199	1～9
1999	10	16 ～ 17	大型貨物車で県道を走行中、対向の貨物自動車の幌が風にあおられてはズレ、すれ違ったときに、骨格のパイプごと飛んできて幌の先にある約5メートルのパイプがフロントガラス右側を突き破ってきたため右あごから左耳後部にかけて貫通した。	40301	10～ 29
1999	10	15 ～ 16	船舶解体のためアセチレンガス溶断作業を各担当に別れて行っていたが、同僚の溶断作業中に出た火花が下の階の床に飛び火していたので、甲板の下に入り足で火を消そうとしていたところに甲板が落下し、その下敷きになっ	80109	1～9

			た。		
1999	10	9 ～ 10	資材(ベント材、C型チャンネル、H鋼)が積んである付近でドラグショベルを用いて整地作業を行うに当たり、旋回範囲を確認するためショベルを上げながらゆっくり旋回させていたときに、ショベル部分がベント材に接触したため、一番上に積まれてたベント材一つが落下して近くを通行していた者にあたった。	30106	50～ 99
1999	12	9 ～ 10	ロングスパンエレベーターの解体作業の現場において、解体されたロングスパンエレベーターのガイドレール取付用部材である1.5mの単管が、地上33メートルの足場板上から落下し、そのエレベーターの下で作業していた者の身体に当たった。	30201	30～ 49
2000	2	11 ～ 12	マンホール設置のため、ヒューム管(重量5.2t)を3個の吊金具で移動式クレーンにより立孔に降す作業中、吊金具が破損・脱落して傾いたため、立孔上部に入り込んでいた者がヒューム管と立孔シートパイルの間に挟まれた。	30110	30～ 49
2000	6	15 ～ 16	鉄骨の梁材をトラックの荷台に積み込むため天井クレーン(2t)の玉外しをしていたときに荷台から墜落し、続いて梁材が荷台から落下して一旦床に当たった後頭を直撃した。	40302	1～9
2000	10	16 ～ 17	通路のひさし(中空のアルミ製、質量約1t)を製作していて、この製品を裏返すため吊り上げ荷重5tの天井クレーンで製品の長手方向2箇所に溶接されている玉掛用吊りピースにナイロンスリングを掛けて片側を吊り上げ、製品がほぼ垂直になったときに、玉掛けしていた片方の吊りピースの周りの部材部分が引きちぎれて製品が落下し、頭部を挟まれた。	11209	100 ～ 299
2000	8	14 ～ 15	国道の道路拡張工事において、擁壁の裏込作業のため砂利均し作業中に、落石防護壁解体のためホイールクレーンで吊り上げ旋回させていたH鋼(長さ11m、質量約500kg)3本が落下してきて激突した。	30106	10～ 29
2000	12	13 ～ 14	船上クレーンのメインビームの電線用ハンガーの取付け作業のため、アーク溶接用ホルダーとケーブルを手を持って、製作中の船舶用クレーンガーダの下部を通行中に、上部の作業箇所からガーダのレール(約340kg)が落下してきて頭部に当たった。	11301	10～ 29

2000	4	8 ～ 9	ビル新築工事において、トラック荷台の鋼材(長さ3.3m、重さ660kg)をクレーンで吊り荷台で地切りしたところ、すぐ隣に積んでいた同形状の鋼材が倒壊しそうになったので、玉掛者が手で押さえようとしたが危険を感じ荷台より飛び降りたところに鋼材が落下した。	30201	10～ 29
2000	4	10 ～ 11	工場内の床に2段積にされたH鋼(質量約400kg)の上部2段目の手前から2本目を2.8t吊り天井走行クレーンでクランプを用い吊り揚げたときに、手前から1本目に接触したため鋼材が落下し右大腿部に当たった。	11209	10～ 29
2001	2	14 ～ 15	船内のNo.3ホールドの高さ約15mの位置で、高所作業車に乗ってワンドルピースという重さ約13kgの鉄板の溶断作業をしていたが、誤ってワンドルピースを落下させたため、下でゴンドラに乗るための準備作業をしていた者の頭部を直撃した。	11501	1000 ～ 9999
2001	4	8 ～ 9	現場の資材をトラック(最大積載荷重9.9t)で資材センターに運び荷を下ろそうと荷台のあおりを開けたところ、積んであったレール(長さ約10m、重さ370Kg)が落下し、腹部に当たった。	40301	30～ 49
2001	4	15 ～ 16	もと田んぼだったところを整地した敷地内において、油圧ショベルで鉄板の片づけ作業をしていたところ、立った状態の鉄板にかけていたフックが外れ、激突した。	30199	10～ 29
2001	2	9 ～ 10	クレーン用グラブバケットの組立で、ホイスト式壁クレーン(1.0t)を使用して吊り上げた状態で溶接していたところ、玉掛けのためバケットに仮付けされていたアングルがバケットから外れたため、バケットが落下し、バケットと隣りに置かれていた他のバケットとの間に挟まれた。	11509	50～ 99
2001	6	11 ～ 12	砕石用ベルトコンベアーの解体工事において、溶断したベルトコンベアーの点検用歩廊を移動するため吊り上げ荷重25tのホイールクレーンで吊り上げて回転したところ、手すり部分と歩廊部分が腐食のため剥がれて歩廊が落下し玉掛者を直撃した。	30302	1～9
2001	7	0 ～	12tトレーラーにビル建設用鉄骨(質量1.8t)を荷台にのせ鉄骨をレバールックで固定作業で、固定する4ヶ所のうち1ヶ所のレバールックを引いた	40301	10～

		1	ところ、積まれた鉄骨2本のうち上の1本が落下し、トレーラー横の鉄製の階段との間に挟まれた。		29
2001	7	11 ～ 12	廃タイヤからホイールを取り外すため、インパクトレンチでホイール取付部のボルトを外していたところ、タイヤチューブがバーストし、外れたホイールにインパクトレンチの回転力が加わってホイールが回転しながら飛来し、顔面を直撃した。	80109	1～9
2001	8	7 ～ 8	アスファルト舗装材製造設備の変更のため骨材ホッパーを解体で、ホッパー上部の仕切板(質量1.5t)の根元の取付ボルトをガス溶断したところ、板が倒れて落下しその下敷きになった。	10804	30～ 49
2001	10	16 ～ 17	ホテル建設工事において、吊り足場の組立で高さ1m、幅1mの架台に置かれている鉄骨の吊り足場に乘って鉄骨上部に親綱を取付ていたときに、体の重みで突然鉄骨が倒れて架台から落ちた鉄骨(総質量643kg)の下敷きになった。	30201	10～ 29
2001	11	9 ～ 10	資材置場で、トラックの荷台から鉄くずをマグネット付きの重機で荷降ろし重機のブームを荷台上に戻そうと旋回したときに、ブームの先端が鉄くずの山に積み上げてあった廃棄済みのエアコンの室外機(重さ約100kg)にあたりが落下して荷台の外から鉄くずの仕分け作業をしていた者に激突した。	80109	1～9
2001	11	16 ～ 17	新造船の船尾に取付けていた支持鋼材(質量約300kg)を撤去するため鋼材に空けてある作業用の穴にシャックルを取付け、ジブクレーン(吊り上げ荷重41.7t)で吊上げたところ、鋼材の上端が船舶デッキの張出部に接触してシャックルの取付け穴が破断し、鋼材が落下した。	11501	10～ 29
2001	11	8 ～ 9	工場の増改築工事において、空調配管の設置に不備があったので通路上で配管の付け替え作業を行っていたときに、配管(約10kg)が落下し、通路を通りかかった労働者の頭に激突した。	11301	30～ 49
2001	10	13 ～ 14	鋳造工場で使用したダイカストマシンの金型を倉庫内の所定の置場に片付けるため、フォークリフトで運搬して吊り上げ荷重2.8tの床上操作式天井クレーンで金型を吊上げ3段の棚の最上段に載せていたときに、隣に置かれていた金型(質量約700kg)が反対側に落下し金型整理のため置場のチェックを	11102	50～ 99

			していた者に当たった。		
2002	2	14 ～ 15	地上14mの橋台で型枠の組立て作業中、型枠に仮差し込みしていたセパレーター（径12mm、長さ1m、重さ0.88kg）16本のうち座金の取付けが終わっていない1本が抜け落ちて、資材を取りに下を通行中の者のヘルメットを突き抜け前頭部に突き刺さった。	30105	10～ 29
2002	3	10 ～ 11	解体した枠組み足場を部材ごとトラック上のクレーン（つり上げ荷重2.93t）で積み込み、積み荷にワイヤーロープをかけるため2名が地上でワイヤーロープが外れないように手で押さえ、1名が荷に上がりレバーブロックで締め付けたときに、ワイヤーロープが掛かっていなかった部材の束（筋かい、質量約444kg）が落下し地上の1名を直撃した。	30209	1～9
2002	9	9 ～ 10	テレビ塔の塗装工事において、鉄骨上に仮置きしていたパイプを鳶工が取上げたとき、そのうちの1本が転がり落ちて高さ87mの位置からネットの間隙を通過して地上に落下し、テレビ塔西側の自動販売機付近にいた労働者の頭部に激突した。	170209	30～ 49
2002	11	8 ～ 9	作業場に搬入した鉄骨材をトラックに積み込む作業で、鋼材を連結していたボルトを外したときに、鋼材のバランスが崩れて70cm下の地面に落下し、地上でしゃがんだ姿勢で別の鋼材の溶断作業をしていた者の背中に激突した。	11209	1～9
2003	2	11 ～ 12	10tのダンプ・トラックで畑へ堆肥の運搬作業をしていたところ、途中でトラックが脱輪したので同僚とともにトラクター・ショベル(機体質量が3t)でトラックのフックにワイヤロープをかけ牽引しているときに、フックを支えていたボルトが壊れてフックが外れ、そのフックがトラクター・ショベルの運転者を直撃した。	70101	1～9
2003	10	11 ～ 12	船体ブロックの組立作業中に、船体ブロックに斜めに仮溶接されていた鉄板（重さ約2.5t）が落下し下敷きになった。	11501	50～ 99
		13	クレーンを使用して、長さ120cmのパイプサポート42本を、軀（く）体19		

2004	9	～ 14	階付近の鋼製枠組み足場に設けた作業構台（地上55.1m）から、躯体屋上へ荷上げしようとして作業構台から約9mつり上げたところ、6本のパイプサポートが地上に落下し、地上で作業を行っていた被災者に当たった。	30201	10～ 29
2004	4	～ 14	倉庫塗装工事において、枠組足場の組立作業途中、上方で作業する労働者が足場資材を落下させ、下方で作業していた被災者に激突した。	30209	10～ 29
2004	7	～ 7	岸壁に接岸していた貨物船の船内でコイル（重さ17t）の積込み作業中、1段目に積んだコイルが横方向にすべることを防止するためのストッパーの位置を、コイルとコイルの間に潜り込んで修正していたところ、コイルの重みでストッパーがずれ、下のコイルが横滑りし、上のコイルが被災者に落下した。	50202	10～ 29
2004	3	～ 11	交通信号機改良工事において、運搬中に荷崩れした信号柱（直径20cm、長さ9m、質量220kg）を荷台上で直そうとした際、トラックの前部支持台からこの柱が外れ、落下した弾みで柱の元口が跳ね上がり、被災者が元口部分を持っていたため、柱と一緒に荷台から転落し、柱の下敷きになった。	30301	100 ～ 299
2004	6	～ 10	建築資材（H鋼、300×300×6000mm、0.6tを2本横に繋げたもの）をトレーラーからクレーンで荷下ししていたが、1つ目を下ろす際、H鋼間に敷く番木がなかったため、階段状の3段目に仮置きした状態で番木を探しに行った。その後、被災者が番木を見つけて戻って来たところ、突然、仮置きしていたH鋼が崩れ落ち、被災者を直撃した。	50101	1～9
2004	2	～ 15	ポールトレーラーが工場から出庫しようとした際、ポールトレーラーの荷が工場内に積んでいたH鋼に接触し、H鋼3本が落下し、近くにいた被災者に激突した。	11209	10～ 29
2004	10	～ 12	仮設構台設置工事現場でのH型鋼の建て込み作業において、H型鋼と土嚢の間に挟まれた水道用ホースを取り除くため、H型鋼を両手で掴んで手前に引いたところ、H型鋼が回転して足元に落下した。医療機関で治療後現場に戻り、帰宅のため乗用車に乗り込もうとしていたところ、突然倒れ、その後、救急車で搬送されたが死亡した。	170209	1～9

2004	7	8 ～ 9	新造船船体一部の2重底タンク内のバラストパイプをエアールにより圧力テスト中、パイプの閉止用ドレサカカップリング（伸縮継手にパイプを取り付けた物で直径450mm、長さ1000mm、重さ約160kg）が吹き飛び、2m離れた位置で図面のチェックをしていた被災者に当たった。	11501	300 ～ 499
2004	3	8 ～ 9	足場材（鋼製布板等）を仮置きしている敷地内で、束ねていた鋼製布板（重量約750kg）が約2.4mの高さから落下し、被災者に激突した。	170209	10～ 29
2005	3	11 ～ 12	鋼製のリング（重さ400kg）を溶接するため、天井クレーンを使用して反転させようと操作中、フックからワイヤロープが外れリングの下敷きとなった。	11301	1～9
2005	12	9 ～ 10	天井クレーンを使用して鋼板コイルの移動作業中、下段に並べていたコイルが滑動したため、上段に積んでいたコイル（重さ13トン）が斜め方向に落下し、玉掛の補助者をしていた被災者がコイルと背後に並べていたコイルとの間に挟まれた。	170101	30～ 49
2005	2	11 ～ 12	フォークリフトのタイヤのパンクを修理するため、2枚のホイールをボルトとナットで仮留めし、チューブに空気を充填したところ、ナットが外れ、飛来したホイールが被災者に激突した。	80204	1～9
2005	2	14 ～ 15	足場で組立作業をしていた作業者が火打ち材として使用する単管を枠組足場の枠の上に仮置きしていたところ、強風により単管が落下、下で作業中の被災者に激突した。	30201	1～9
2005	8	9 ～ 10	キュポラの耐火物の解体撤去工事中、溶断したI型鋼片が炉内に落下し、炉内で作業中の被災者に当たった。	30209	10～ 29
2005	5	19 ～ 20	工場土間上で作業中、架台から製作途中の鉄製の柱（重さ4.5トン）が落下し、下敷きとなった。	11209	1～9
		11	資材置場において、門型手動チェーンブロック式重量物つり上げ装置の部材		

2005	8	～	台座に置く作業をしていたところ、台座上の支柱（重さ420kg）が落下し、被災者に激突した。	30302	1～9
2006	1	10 ～ 11	河川護岸工事において、作業場に敷鉄板を敷き詰めるため、移動式クレーンで敷鉄板の地切りを行っていたところ、クレーンのジブの先端付近に置き忘れた鋼製の治具（約5kg）が地上高約27mの位置から落下し、玉掛作業を行っていた被災者を直撃した。この自社製の治具は「ワイヤ止め」と呼ばれクレーンをトラックにて搬送するとき、クレーンのワイヤが傷まないようにするためのものである。	30107	1～9
2006	2	14 ～ 15	鉄筋（柱筋、12メートル、198キログラム）を25トンのトラッククレーンで建て込む作業をおこなっていたところ、鉄筋を吊っていたベルトスリングが切断し、鉄筋が落下した。この鉄筋が落下後跳ね、被災者に当たった。	30106	1～9
2006	2	15 ～ 16	事業所内の解体工事現場において、トラックに積載した廃材を重機で整理していたところ、トラックの荷台からH鋼（長さ約8m、重さ約700kg）が落下し、トラックのそばで清掃作業をしていた被災者に当たった。	30201	30～ 49
2006	4	10 ～ 11	工場内において、コンテナ船のコーミングトップの組付作業中、組付中のピンブロック（約920kg）が作業中の労働者に落下した。	11501	10～ 29
2006	5	16 ～ 17	船体ブロック組立作業現場において、労働者3名がスタンフレームのラダーホン（舵の一部）の組立て作業を行っていたところ、組立てていた鉄板（長さ3m×幅75cm×厚4cm、約700kg）が落下し、直下で溶断作業を行っていた被災者が、鉄板と共に高さ約3.2mの作業床から地上に墜落した。	11501	10～ 29
2006	7	10 ～ 11	建設工事で使用するH形鋼を、工場内の深さ約1.5mのピット上で溶接しようとしていたところ、H形鋼と一緒にピットに墜落した。溶接しようとしていたH形鋼は長さ約1mのもので、幅25cmの鋼材の上に置かれていた。	30201	30～ 49
			翌日出荷予定の鉄骨梁1本が不明となったため、他現場へ出荷する梁の中か		

2006	8	19 ～ 20	ら2. 8トン天井クレーンを使用して1本ずつ選り分けて探していたところ、梁1本（H鋼、H-588×300×12×20、長さ4.6m、重さ約700kg）が落下し、はさまれた。	80109	10～ 29
2006	11	10 ～ 11	単管足場の架設作業中、長さ10mの建地を組み立てる際、建物屋上から20m1本と4m1本を摩擦接合式の単管ジョイントで接合したものを下ろし、下から建てた4mの単管と接合させるときに、ジョイント部分が外れ、4mの単管（重量約11kg）が落下し、地上部分で単管を支えていた被災者を直撃した。	30209	1～9
2006	11	11 ～ 12	地山の落石防護のための金網設置工事において、被災者は道路面から直高約100m地点の金網上部のアンカー穿孔予定箇所の付近に金網留資材（アンカー（直径21mm、長さ1.55m、重さ3.4キロ）、補強パイプ、座金）12セットを2m間隔で仮置きした後、金網下部に移動して、グラウト注入作業を行っていたところ、仮置きした資材のうちアンカー1本が落下して、約8m下にいた被災者にあたった。	30108	1～9
2007	3	9 ～ 10	馬鈴薯選別機械の据付工事において、機器の撤去・据付作業が終了し、チェーンブロックの走行レール用に架設したH鋼（長さ12m、重量約240kg）を取り外すため、天井の梁（約4m）に固定していた2個のクランプを外していた際、H鋼が振れ、脚立上の作業者が墜落、その上にH鋼が落下して作業者を直撃した。	30302	100 ～ 299
2007	1	12 ～ 13	被災者は、トレーラーから梁（H型、長さ5.1m、重さ約400kg）9本を降ろそうとしていたところ、左側梁1本が落下しトレーラーの傍らにいた被災者がその下敷きとなった。	40301	30～ 49
2007	3	7 ～ 8	船に載せる廃鋼材（50キロレール）をトレーラーからフォークリフトを使用し降ろす際、廃鋼材がワイヤロープで束ねられていて、フォークリフトで降ろすことができなかつたため、廃鋼材を一旦少し持ち上げ隙間を作り、その隙間に入りワイヤロープをワイヤーカッターで切断したところ、廃鋼材が1本落下し、はさまれた。	50202	10～ 29

2007	8	11 ～ 12	自動倉庫において荷を取り出すためスタックークレーンから降ろされたパレットが荷取り出し口手前のコンベヤーの一部に引っかかり停止した。停止したパレットを直そうとパレットに近づいたところ、リフターが上昇し、パレットが被災者側に傾いた。これによりパレットの上に載っていた荷（鉄製コイル、重量960kg）が被災者側に落下し、被災者は下敷となった。	10805	300 ～
2007	9	9 ～ 10	立坑（直径1.9m、深さ3.3m）施工において、移動式クレーン仕様付ドラグ・ショベル（つり上げ荷重0.9t）を使用して、地上から立坑内にライナープレート（約20kg）を搬入していたところ、つり上げたライナープレートが立坑脇に仮置していた別のライナープレートに接触し、その束が立坑の中に落下して、立坑内でその荷受をしていた被災者に激突した。	30110	10～ 29
2008	10	16 ～ 17	工場にタンクを設置するために工場の床のコンクリートを手持式ブレーカーで破壊して、コンクリートと一緒に打設してあった鉄骨を切断及び溶断した。その鉄骨をドラグ・ショベルで引き抜く作業中に鉄骨の一部が切断等されていなかったため鉄骨がひっかかり、その反動で鉄骨の一部がはね飛び被災者に当たった。	30201	1～9
2008	4	8 ～ 9	フォークリフト（積載荷重2.5t）を使用して、車両積載形トラッククレーンの荷台へ配管（173kg）を積み込む作業中に、被災者が荷台上で荷役作業の補助を行っていたところ、バランスを崩して1.15m下の地面に転落し、その上に配管が落下してきて下敷きになり死亡した。	30302	10～ 29
2008	11	21 ～ 22	店舗改修工事において、既存建物6階部分に張り出したH鋼を切断して解体する作業を行っていたところ、一部を残して切断した状態の鉄骨片が突然破断して、450×158cm、長さ約60cm、重さ約50kgの鉄骨片が荷揚げ口より落下し、約22.15m下で搬出作業に当たっていた被災者に激突した。	30201	10～ 29
2008	5	11 ～ 12	S造8階建て事務所兼マンション解体工事現場の4階部分を解体するため、4階天井の鉄骨梁の柱付近の両端を溶断して解体を行っていた。被災者は、解体工事現場1階で車両系建設機械を運転して解体作業で出た廃棄物の整理を行っていたが、4階の解体作業区域の下に侵入したところ、解体していた長さ7m鉄骨（H鋼）大梁が落下し、鉄骨（H鋼）大梁と4階床にはさまれて死	30201	10～ 29

			亡した。		
2009	5	10 ～ 11	天井クレーンの走行レール取り換え工事において、被災者含む作業員3人は走行レールを巻き上げ機で水平移動させるために、レールの先端にワイヤーを取り付ける作業を行っていた。レールの先端にワイヤーを取り付け、ワイヤーが張った状態で休憩となったため、そのままの状態被災者が休憩所へ移動していたところ、何らかの原因で走行レールが落下し、被災者を直撃した。	30302	1～9
2009	10	8 ～ 9	トラックで、φ700mm、重さ約1.2tの鋼管9本を3本ずつ3段で固定して荷受先に搬送後、荷受先の用意した移動式クレーンを使用し、同僚と2人で荷降ろし中、3段目の3本の内2本まで降ろした時に残り1本が転がり落ち、下で作業していた被災者に落下した。	40301	30～ 49
2009	1	8 ～ 9	工場において、被災者が、製品である円柱形の巻取りドラム（直径約85cm、長さ約422cm、重さ約2.8t）を横向きに寝かした状態で据え付けていた台から移動させるため、ドラムを固定していたワイヤロープ等を止めるシャックルを外したところ、ドラムが台から転がり落ちて、被災者が転がってきたドラムと作業床との間にはさまれた。	11301	100 ～ 299
2010	3	10 ～ 11	厚板工場の鋼片ヤードにおいて、労働者2名が、（前日に半分に切断されて積み重ねて置かれていた）厚板の切断面の点検作業をしている時に、厚板の置き方が不安定だったため、突然、当該厚板が崩れ落ち、下敷きとなったもの。当該厚板は、大きさ約210×115cm、厚さ約30cm、重さ約6tのものが約半分に切断されたものであった。また、当該厚板は、鉄製のブロック（約25×25cm、高さ約15cm）2コの上に置かれていた。	11001	1001 ～ 9999
2010	7	11 ～ 12	被災者は、鋼管柱8本を8tトラック（2.9t積載型移動式クレーン付）に2人で積込み、移動式クレーンのアウトリガに上がり積込み状況等を確認していたところ、積んでいた鋼管柱が崩れて落下した。アウトリガに上がっていた被災者も転落し、頭部に落下した鋼管柱が激突し死亡した。	40301	50～ 99
		17	被災者は、2tのトラッククレーンのオイル交換を1人で行っていた。荷台には配送用の鉄筋の束が積んであり、被災者が何らかの理由で荷の止めベル		50～

2010	7	～ 18	トを外したところ、鉄筋の束（重量約700kg）が崩れて下敷きになったもの。	40301	99
2010	10	～ 9	トラック（積載荷重2.6t）の荷台に積まれた荷（サッシを立て掛けて置いておくための鉄製のラック、縦4.5m、横71cm、高さ34cm、重さ70kgの10個重ねを3列、合計30個）を固定していたワイヤーの締め機を緩めて外したところ、荷が崩れ落ち、落下した荷の下敷きになって死亡したもの。	150102	1～9
2011	12	～ 13	事業所構内において、廃棄すべく大管モールド（＝鋳鉄管の鋳型、金属製、円筒状、直径1,600mm、長さ1,800mm）のガス溶断作業を、請け負った会社所属の被災者外1名が、分割・切断作業（縦置きで12片に分割）を行っていたところ、被災者が倒れてきた切断片（約600kg、800mm×800mm）の下敷きになったもの。	11002	1～9
2011	8	15 ～ 16	造船所において、被災者が船体ブロックの一部となる鉄骨材に鋼板（約780キログラム）を仮付け溶接する作業等を行っていたところ、当該鋼板に落下防止措置を講じていなかったため、鋼板が高さ約165センチメートルの位置から倒れ落ち、被災者の頭部を直撃したもの。	11501	30～ 49
2012	1	8 ～ 9	被災者は段差のある地山（全5段）3段目の既設半円コルゲート管（排水管）を撤去した雨水柵設置場所で、上方からの土砂及び転石落下防止のコンパネを土留柵に設置する作業を行っていた。その際、斜め上方法面では、他業者が重機足場に使用する単管を法肩から下ろす作業を行っており、うち1本がコルゲート管上に滑り落ちてコルゲート管上を約20m滑走し、被災者の右側頭部に激突した。	30108	10～ 29
2012	9	～ 12	コンクリート2次製品製造工場（ED1）の解体工事で使用した足場を解体する作業において、足場の4層目の作業床にいた労働者が持っていた交さ筋かい2組のうち、1組が落下し、地上で同筋かいを受け取る役割をしていた同事業場の被災者の鎖骨を貫通して胸まで到達し、被災者は出血性ショックで死亡した。	30209	1～9

2012	8	15 ～ 16	SRC10階建の建物を5階建に改修する耐震補強工事において、7階スラブ上でコンクリート外壁（パイプスペース）部をワイヤーソーを用いて切断する運転作業を行っていたところ、ワイヤーソーのジョイント部より、金属片（ダイヤモンド入り）ビーズが外れ、被災者の右胸部に飛来し肺を貫通した。その後、直ちに救急搬送されたが、出血性ショックにより死亡した。	30201	1～9
2012	2	11 ～ 12	ポンプの金属部品（重量1.4 t）を溶接加工していた際、仮止めしていた溶接箇所が外れて当該部品が落下し、被災者が下敷きとなり死亡した。	11209	10～ 29
2012	4	9 ～ 10	工場において、40フィートハウスコンテナ組立てのため、被災者は天井クレーン（床上操作式、つり上げ荷重2.825 t）を運転して、コンテナ側板（質量約1 t、2点吊り）を立てた状態で移動させていたところ、クレーンの吊り具を掛けていたコンテナ側板に溶接されていた掛け金具の溶接部が剥がれてコンテナ側板が地上に落下し、一瞬地上で自立するも、被災者の方向にコンテナ側板が倒れ、下敷きとなった。	11503	50～ 99
2013	9	10 ～ 11	射出成型機（真空成型機）で使用する金型を移動式ラックに乗せ、当該ラックを動かしたところ、金型がラック上部のローラーを滑り落下（高さ1.5～6 m）し、被災者の頭部を直撃した。尚、移動式ラック上部には射出成型機にセットするためのローラーが設けられており、端部には安全ストッパーが設けられていたが、使用していなかった。	10805	50～ 99
2013	7	18 ～ 19	被災者は、400トンプレス機の製品段取り作業【コイル（重量：550 Kg）を段取り用コイルカーに載せる作業】を行っていたところ、コイルカーの下ピット内に鳩がもぐり込んでしまい、ピット内に被災者が入り鳩を捕まえようとしたところ、狭くて屈めず、コイルカーを他の作業者が動かしたところ、アンコイラー（コイル固定用心棒）とコイルの中心があつていなかったため接触し、コイルが倒れ被災者頭蓋部に激突し死亡した。	11502	100 ～ 299
2013	5	14 ～	工場の塗装等工事において、外部足場を解体中、足場材（ビティ枠35本、約400 kg）を積み重ねて番線で縛ったものを車両積載型移動式クレーン（2.93 t）にてつり上げたところ、足場材が落下し、下にいた被災者が	30203	1～9

		15	下敷きになった。		
2013	5	12 ～ 13	被災者は、外管に内管を差し込んだ状態のパイプサポート32本をワイヤロープ2本で玉掛けし、タワークレーンでつり上げていたところ、地上から高さ15メートルぐらいの位置で、32本のうち半数の内管が外管から抜け、そのまま地上に落下し、つっていた荷の直下若しくはその付近を通行していた被災者の頭に直撃した。尚、被災者は休憩中であったため、ヘルメットは着用していなかった。	30201	1～9
2013	5	10 ～ 11	屋外作業場において、被災者単独で建築用鋼材（約730kg）をホイスト式天井クレーンでつり上げ、出荷するための所定場所に積み上げる作業を行っていたところ、1.8メートルの高さの上に積み上げた鋼材が落下し、被災者が鋼材の下敷きとなった。	11209	1～9
2013	12	8 ～ 9	屋外作業場において、4.8tホイスト式橋形クレーンを用い、山留め鋼材を所定の置き場に運搬し玉外した後、ホイストを横行させたところ、予め積み上げられた山留め鋼材（高さ約3.5m）の上部に鍵手状の玉掛用具が接触し、山留め鋼材1本（1.1t）が落下、高さ約1mの鋼材上にいた被災者の頭部を直撃した。	11209	1～9
2013	3	16 ～ 17	被災者が1人で、2段に積み上げられたH鋼（高さ80センチメートル、幅30センチメートル、長さ8メートル90センチメートル）の傍らで、グラインダで研磨作業を行っていた際、H鋼が崩れ下敷きとなって死亡した。	11209	1～9
2014	10	8 ～ 9	加工を終えたH型鋼を5段積み上げたところ、最上部の鋼材が床面に落下し、別の鋼材を移動させる作業を行っていた被災者の背中から頭部に当たった。	11209	10～ 29
2014	7	17 ～ 18	水道建設工事現場にて、土止め材を移動させるため、移動式クレーン機能付きドラグ・ショベル、ワイヤロープ及びつりクランプによりつり上げたところ、つり荷がつりクランプから外れ、下にいた被災者の上に落下した。	30199	10～ 29
2014	5	13 ～	鉄骨鉄筋コンクリート製の躯体の配筋作業中、躯体鉄骨から張り出された鋼製のアングルによる鉄筋用足場兼鉄筋仮置き架台に鉄筋を載せ、さらに足場	30102	30～

		14	部分に同僚3名が乗って作業していたところ、アングルが変形し、積載鉄筋が落下。架台の下で作業中の被災者が下敷になり、死亡した。		49
2015	9	14 ～ 15	被災者他3名は円筒状の鉄柱（φ約50cm、長さ約10m、重量約1.6t）の溶接部に対する検査を行っていた。当該鉄柱は横に倒された状態であったため、円周に沿って溶接された箇所のうち、下部溶接部の検査はそのまま出来ないことから、当該鉄柱を回転させる作業を行う必要があった。被災者が当該鉄柱の外周上部に手を掛けて回転させたところ、回転した鉄柱と背後の建屋壁に頭部をはさまれ、死亡したもの。	170209	100 ～ 299
2015	2	11 ～ 12	造船所構内にて、船体ブロック両側面の傾斜部（高さ約2メートルの位置）に掛け渡す形で乗せていた補強鋼材（長さ約8メートル、重さ約1.66トン）が滑り落ち、近くで溶接作業を行っていた被災者の上半身に当たり、死亡したもの。	11501	1～9
2015	8	14 ～ 15	被災者は、LNGタンク建設工事現場において、底板の溶接作業に従事していた。同時刻、タンク内の高さ44.2mの足場上では、他の事業場の労働者が吊りピース（7.6kg）を屋根の梁に溶接する作業を行っていた。この作業は、吊りピースを持つ者とその反対側から溶接する者の2人作業であるが、吊りピースを持っていた者が何らかの原因により感電し、吊りピースを落としてしまい、吊りピースが被災者の背部に当たったもの。	30302	50～ 99
2016	11	8 ～ 9	被災者は、ビル建築工事で使用する鉄骨を、トレーラー（15t）にて運搬し、同建築現場内でトレーラーの横の地上にて、現場所属のとび工による荷卸し作業の補助を行っていたところ、荷崩れによって、荷台上の鉄骨1本（約250kg）が落下し、頭部を直撃し死亡した。	40301	10～ 29
2017	12	14 ～ 15	RC橋脚下部工における脚柱の鉄筋組み立て工事中、主筋に帯鉄筋を所定位置に配筋するため、帯鉄筋を4本1セットとして主筋の上段から中段に掛けて3セットを結束線で仮固定していたところ、結束線が破断したことにより帯鉄筋が落下し、帯鉄筋の直下で作業を行っていた被災者に激突した。	30105	1～9
2017	11	12	長さ45mのガス管（約900kg）を敷設溝に向けて横向きに運搬中、台車に載せていたガス管が掘削溝に落下しそうになったため、これを止めよう	30199	10～

		13	と掘削溝に入った被災者がガス管の下敷きになり死亡した。		29
2017	5	12 ～ 13	コイル（ロール状の鉄板）を切断加工するスリッターにおいて、被災者は、コイルを供給する装置であるアンコイラーへ重量11.92tのコイルをセットする際、コイルカー（アンコイラーへコイルをセットする装置）から転落した当該コイルに激突された。	11009	50～ 99
2017	5	14 ～ 15	鉄骨建方作業を行う為、トラックからレッカーを用いて鉄骨を降ろす作業中、7本あるうちの4本目を降ろすにあたり、トラックの荷台に置かれた鉄骨上に上ったところ、当該鉄骨が動いた反動で、被災者はトラックから地面に墜落するとともに当該、鉄骨（0.8t）も被災者の上に落下した。	30201	1～9
2017	3	14 ～ 15	高さ1.58mに設置された6.8m×4.2mの鋼製構造物上にて、被災者ほか1名が当該構造物の歪みを矯正する作業を行っていた。矯正作業のために使用していた鋼制定規（長さ7m×高さ30cm×厚さ2.2cm 重さ約360kg）を数箇所溶接にて取り付けしていた途中、大きな音とともに溶接箇所が外れ、被災者と定規が鋼製構造物上から墜落・落下し、被災者の大腿部の上に鋼制定規が落下して被災した。	11301	30～ 49
2017	2	10 ～ 11	5階建ての建築物の新築工事現場において、移動式クレーンを使用して、トラックで搬入した鉄骨梁（長さ約7.3メートル）を現場内に仮置きする作業中、同僚と2名で玉外し作業を行っていた被災者が、架台（高さ約1.9メートル）の上に下ろした鉄骨梁から玉掛用具を取り外した後、架台から地上に落下した鉄骨梁に激突され、医療機関に搬送されたが、同日死亡した。	30201	10～ 29
2018	12	14 ～ 15	トラックに架設ベント材（50×50×500cm、重量764kg）を積み込む作業を行っていた。移動式クレーンを用いて3列3段に下から順に積み込み、最後のベント材の玉掛け用ワイヤロープをベント材から外す際、クレーンを巻き上げることにより玉掛け用ワイヤロープをベント材から抜いたため、玉掛け用ワイヤロープがベント材に引っかかりベント材が2.5m落下し、被災者に当たった。	30105	1～9
			被災者は河川の岸側において鋼矢板の圧入作業のための溶接、玉掛け業務に		

2018	11	12 ～ 13	<p>従事していた。被災者が鋼矢板を玉掛けした後、クレーンのOPが吊り上げられた鋼矢板をパイラー上まで移動させ、鋼矢板の移動後、パイラーの近くにいた別の作業員が鋼矢板のセクションにあわせていた際、鋼矢板に溶接で固定されていたウォータージェット用の鋼管が外れ、岸側にいた被災者を直撃した。</p>	30107	50～ 99
2018	9	16 ～ 17	<p>鋼棒表面加工工場にて、出荷前製品置場の金属製ラックの中に、盤木を介して4段積みされた丸鋼の最上段の丸鋼（長さ3.067m、直径16cm、重量480kg）1本が1.14mの高さから転がり落ち、そばにいた派遣労働者が下敷きとなったもの。</p>	11209	30～ 49
2018	6	12 ～ 13	<p>木造家屋建築物解体工事において、防音・防じん用仮設設備（仮囲い）の解体中、労働者Aが高さ2.7mの単管（手すり部材）の上に乗る、建地単管（長さ3.6m・重さ約13kg）を外していたところ、雨で足が滑った際、建地単管を手放してしまったところ、この建地単管が地上にいた被災者の方へ倒れ、被災者（保護帽着）の頭部に当たり被災した。被災時、被災者の意識が無く、翌日死亡した。</p>	30202	1～9
2018	3	10 ～ 11	<p>橋脚築造工事現場において、土止め支保工解体作業の際、被災者は腹起こしの鋼材を支持するブラケット材をガス溶断していたところ、腹起こしが落下しないよう、あらかじめチェーンブロックを両端2箇所に掛け、一段上の腹起こしに当該腹起こしを吊り下げるようにしていたが、ブラケット材が溶断されたときに片方のチェーンブロックが破断し、腹起こしが両方とも落下し、上段の腹起こしの下敷きとなり、死亡したもの。</p>	30105	30～ 49
2019	3	14 ～ 16	<p>被災者は、一段目に3本、二段目に2本の俵積み状態で積んだ鋼管（2.132t／本）5本を工場から配送先へ25tトレーラーで運搬する作業を行っていた。荷受け側が行う荷下ろし作業のため、固縛していたワイヤーロープをゆるめ取り外したところ、荷崩れが起こり、二段目の鋼管2本が荷台から落下し、被災者は下敷きとなり、死亡したもの。</p>	40302	50～ 99
2020	3	10 ～	<p>鉄骨部材（重量約160kg）の溶接作業中、当該鉄骨部材の下敷きになっ</p>	30201	1～9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202207_01.html